

日本百名山へのチャレンジ

加藤 晃
KATOU Akira

丸善工業(株)
(元JSTT事務局長)

◎はじめに

今年の8月、北海道の幌尻岳に登り、念願の日本百名山完登を達成したので皆様に紹介させていただきます。

最初に漠然とした目標に定めてから約15年、本格的に頑張り始めてからは10年かかりましたが、よく言われる「事を始めるのに、遅すぎることはない」ことを実感しています。その一方で、いざ、達成してしまうとなんだか寂しく、次の目標探しに焦っている毎日でもあります。

◎きっかけ

登山をやっていた学生時代に深田久弥氏の「日本百名山」という本が出版され、早速購入してみました。その時は格別な思いもありませんでした

ところが随分経ってから、NHKで四季折々の百名山の様子が紹介されたり、岩崎元郎さんの「中高年の登山入門講座」が放送されるようになってからでしょうか、『百名山登山』が中高年の登山者では一種の流行、あえて言えばブランドになってしまい、今ではそういった人達のための登山ツアーが数多く企画され、山は元気なおじさん、おばさん達でにぎわっています。

百名山への挑戦を開始した時期の解釈は決まっていませんがどうやら「百名山を意識して登山を開始した時」というのが一般的のようなので、私の場合は、約15年ほど前に遡ります。

それまで、あまり余裕がなくて、登山から随分と遠ざかっていたのですが、一生つきあえる趣味として登山を再開してみようと決めたのです。そして、まず手始めに3,4年がかりで東海自然歩道を歩いて足慣らしをして、48~52歳は年に2座、53~57歳は年に5座、58歳を越えてからは毎年4座登ることにして、65歳過ぎくらいで完了する計画を立てました。

このときの百名山は確か37,8だったかと思しますので、自分としては遥々とした長期計画をたてたつもりでした。

期	年	年齢	計画	実績	累計
I	~'68	~22歳	-	31座	31座
II	~'73	~27歳	-	1座	32座
III	~'78	~32歳	-	4座	36座
IV	~'83	~37歳	-	1座	37座
V	~'88	~42歳	-	1座	38座
VI	~'93	~47歳	-	0	38座
VII	~'98	~52歳	2座/年	14座	52座
VIII	~'03	~57歳	5座/年	42座	94座
IX	~'08	~62歳	4座/年	6座	100座
X	'09~	63歳~	4座/年		



99座目の宮之浦岳頂上（どこで撮っても同じ!）

◎出会い

山では見知らぬ人までが友達になります。すれ違うときの「こんにちは」、道を譲ってもらったときの「ありがとう」、疲れているときに「頑張ってください、もう少しですよ!」などなど、さわやかな気持ちとなり、疲れを癒してくれますし、時には思いのほか話が弾んだりします。

2年前の十勝岳登山はそんな出会いがありました。8月末というのに、時ならぬ曇（ミゾレ）混じりの強風とガスで、登山口の単独行が途中で数人が自然と一緒に登ろうということになり、見通しの悪いガスの中で懸命に目印を探しながら無事に登頂、下山してきました。

そして下山後、話を交わしたのが札幌のNさんで、Nさんとはその3日後の後方羊蹄山もご一緒し、その後も年に1回ですが、毎年北海道百名山の登山パートナーとして楽しい再会が続いています。

今年5月、百名山99座目の宮之浦岳山頂での出会いも奇跡でした。朝早くにテントサイトを出発して、年に400日も降るといふ屋久島の雨の中、見通しのない山頂で記念写真を撮ってから縄文杉に向かう途中で、雨具で完全武装した登山者と抜きつ抜かれつとなり、どちらからともなく「どちらからですか」の話が始まって暫らくしてビックリ仰天しました。

彼はなんと私が以前勤めていた会社の同じ山岳部のH氏だったのです。私の転勤の都合で、一緒に山に登ったのは1度か2度しかありませんし、2人とも激しいガスと雨に対して雨具を頭から被っていて顔がはっきりとわかるはずもなく、何よりも知っている人がその時期に宮之浦岳の頂上にいるとは思ってもみなかったのです。まさに奇跡の再開でした。

H氏はその後、九州の百名山と大山に登って石川県に戻り、6月

に東北の山、7月には富士山と残っていた百名山を登るペースは驚異的でした。

◎最後の百名山 幌尻岳

8月の盆休みを利用して最後の幌尻岳にN氏、H氏の3人で登る事になりました。幌尻岳は標高2052mで北海道日高山系の盟主といわれていますが、アプローチの大変さも有数のようです。駐車場から林道を約2時間も歩き、そこから渡渉をしながら2時間余ほど奥にある幌尻山荘が登山基地となります。

この渡渉が難物で、2003年の夏には、台風で沢が増水して、閉じ込められた登山者が自衛隊のヘリコプターで救出されたことがありますし、昨年はその台風の影響で林道が崩落していて使えず、私も計画の延期を余儀なくされていました。

でも今年は幸いに水量が少なく、山荘までは回数は10回以上ですが最深でも膝程度までの水位だったので幸運でした。

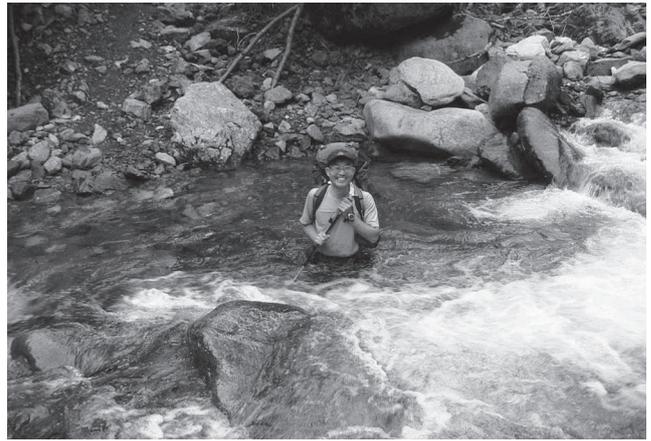
翌日はスッキリとした天気ではなくて、残念ながら眺望を楽しむことができませんでしたが、頂上で立派?に記念撮影が出来、3人で登った幌尻岳はN氏ともどもの百名山達成となり、嬉しさもひとしおでした。

ちなみに、頂上では70歳ほどの2人パーティがいて、聞けば2人も百名山達成とかでしたから、私もあと10年ほどは頑張れるのかなとひそかに勇気付けられました。

どうやら幌尻岳は本州から交通の便が悪い事もあって、百名山の最後とするケースが多いようです。

頂上からはカールの底の水場に見えるヒグマ?の足跡やお花畑を見ながら、大きな起伏を越え、おまけの戸蔦別岳を回って山荘に戻ったのですが、運の悪い事に最後の急坂を降りて沢に下りた時に、猛烈な土砂降りに見舞われ、そのため山荘直前の沢では文字通り胸まで浸かって、流されそうな感じでの渡渉になりましたが、なんとか無事に到着して一安心。

翌日は軽くなった荷物や天気も回復気味なのに加えて、同じルートの下山なので、気持ちにも非常に余裕があり、途中の渡渉をすっか



渡渉スナップ（あまりにも緊張感がない！）

り楽しんだり、無駄話が弾んだり、写真を撮りながらのルンルン下山となりましたが、やはり約2時間の林道歩きは長かった。

◎一番良かった山?

よく訊かれることなのですが、「百名山で一番良かった山はどこですか」という質問があると、困ってしまいます。

というのも、山の良し悪しは一言では言えなくて、季節や天候はもちろんとして、登山したルートや景色、一緒に登った仲間、たまたま泊まった山小屋の雰囲気や自分の体調とか…そういったものがすべて影響してくると思っているからです。

長い間、山登りをやっているのでも、意外に思われるかもしれませんが、私は高所恐怖症の傾向があり、はしごや鎖がある場所なら、殆どなんともないのですが、何の手がかりもないところでは足がすくんだり、谷底に吸い込まれるような気がして駄目なのです。

そういった事が影響しているのでしょうか、どちらかと言えば比較的なだらかな大きな山が好きで、学生時代に夏合宿で通った南アルプス、日本一の富士山は別格としても加賀の白山とか中央アルプス南端の恵那山などは何度登っても飽きません。

◎おわりに

今回の百名山達成は、ある意味では自分の考え方、生き方を反映しているように思えます。最初は自分にはとても無理で、できそうにないように思っていても、

- ①まず、夢を持つ事。
- ②その夢を計画に変えること。
- ③できれば同じ思いの仲間を見つけたり、計画を公表したりして自分のモチベーションを高めること。
- ④そして、ゆっくりでも着実に計画を実行すること。

によってここまでやってきました。

今は次なる新しいテーマを見つけることも大事な課題になっていきますが、これからも夢探しと夢の実現に向けて一步一步着実に進めていきたいと思っています。

できれば楽しい仲間の輪をひろげながら……。



記念撮影（H氏の達成幕を借用）